

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、未来を切り拓き地域創生に資する水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（新たに取り組む項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新しい「京都府教育振興プラン」の推進 2 府立高校産業教育充実事業の有効活用 3 コミュニティ・スクールの推進と地域創生に資する人材育成 </div>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全職員による一致した指導により生徒が規範意識を重んじ、自律的で調和のとれた高校生活を送っている。 2 実践的な教育活動により、全国の水産・海洋高校の学習・研究活動をリードしている。 3 進路について、就職では関連分野を中心に19年連続100%内定、進学では国公立大学（28年連続）をはじめ幅広い分野の大学・専門学校等に合格した。 4 生徒の多くが意欲的に資格取得に取り組み、レベルの高い資格を保持する生徒が増えている。 5 ほとんどの生徒が何らかの部活動に加入し、高校生活の充実に努めている。 6 キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）並びにコラボ推進プログラムに京都府北部の児童・生徒が多数参加し、水産業や海洋産業への理解を深めた。 7 生徒会活動並びに図書館活動の充実により、生徒が多様な価値観をもち、学習・研究活動の幅が広がっている。 8 新型コロナウイルス感染予防の取組を通じて新しい生活様式が定着し、保健衛生に係る意識と生活スキルが向上した。 9 コロナ禍における学びの保障に努め、概ね教育目標を達成することができた。併せて、教育のデジタル化に一定の進捗があった。 <p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主体的な生活の促進と公共心の育成 2 個に応じた指導の推進と指導状況の共有 3 家庭・下宿・寮における好ましい生活の支援 4 ICT利活用とBYODに向けての準備 5 広報活動の質の向上と効果的な生徒募集 6 新学指導要領実施に向けたカリ・マネ、評価の充実 7 アフターコロナを見据えた教育活動の更新と進路保障 8 ボランティア活動等、コロナ禍以前の特色ある取組の継承 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 普通・専門教育の充実と希望進路の実現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個に応じた指導・学びを充実させ、学びに向かう主体性を育む。 (2) 教育のデジタル化に対応しつつ、協働的・対話的な学びを促す。 (3) 授業（実習）改善と海洋プロジェクトの充実により、進路の選択・決定における自己実現を支援する。 (4) 思考力・判断力・表現力の醸成を基に、校内の連携や課題の共有に努めながら、探究活動の質をより向上させる。 (5) 関連産業や外部機関等とのつながり及び地域人材の活用を充実させることで、何が出来るようになるかを展望させ、地域創生に結びつける。 (6) 読書活動・図書館活動の充実を図る。 2 基本的な生活習慣の定着 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。 (2) 道徳性や規範意識を大切に、状況に応じた行動（ふるまい）ができる人間性を育む。 3 心の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。 (2) 日常的な声かけに努め、成長を確かめ合いながら自己有用感を育むとともに主体的な行動を促す。 (3) 互いの個性や多様性を認め合い、生かしながら共に学ぶ仲間づくりを進める。 4 安心・安全・衛生管理の徹底 <ol style="list-style-type: none"> (1) 常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認を怠らず、安全第一を徹底する。 (2) 生活全般において法やルールを守り、他者を思いやる気持ちを行動につなげる能力や態度を育成する。 (3) 新しい生活様式を定着させ、新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。 5 広報活動の充実と家庭・地域との連携強化 <p>専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする中学生目線を基にした積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。</p> 6 職場改革の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員それぞれが仕事（ワーク）と生活（ライフ）について見直し、望ましい時間配分（バランス）を考え、子どもと向き合える時間を確保するとともに、学校職員としての資質向上と生活改善に努める。 (2) 職員がお互いを慮り合いストレスの軽減に務めるとともに、業務の共有・協働・分担、分掌等の枠にこだわらないOJT、スキルの伝承を推進する。